

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391000114		
法人名	医療法人 勝久会		
事業所名	グループホーム「箱根山」		
所在地	岩手県陸前高田市小友町字猪森77		
自己評価作成日	平成28年11月14日	評価結果市町村受理日	平成29年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i/ndex.php?act:on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&Ji_gvosvoCd=0391000114-008PrEfCd=03&Ver:si onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号岩手県福祉総合相談センター3F
訪問調査日	平成28年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは高台に位置しており、眼下には田園風景が広がり、東西に海を臨みとても見晴らしが良い。日当たりも良好で館内は明るく暖かい。また、入居者がその人なりに楽しく過ごせるよう、その人らしい生活ができるよう支援に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新施設、グループホーム「箱根山」は小高い丘に立地しており、ホーム内からの眺めは素晴らしい。遠くに見える海・山をバックに、四季折々の田園風景を見降ろせる環境にある。
 ①新事業所に移り2年が経過、職員は一つひとつの問題を乗り越え、現在の明るいホームに導いた。しかし、現状に甘んじないで更なるレベルアップを目指し、管理者・職員は自ら模索して課題を見つけ、積極的に取り組んでいる。
 ②法人の母体施設(松原苑)からの(バックアップ体制)月2回の訪問診療と、週1回の訪問看護により、利用者の健康管理を徹底し、利用者・家族・職員の安堵感に繋げている。
 ③防災に関する訓練は過去の経験にあやかり、地震・火事・津波(水害)を一連に想定した流れで実施している。
 ④社会生活の基礎となる理念「おもい・や・り」を日々のケア業務に反映していることが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を「お・も・い・や・り」とし、玄関や詰所に掲示し、職員はそれを念頭に業務に当たるよう心掛けている。	社会生活での基本である「お・も・い・や・り」を管理者が理念として発案し、全職員に問いかけ、常に相手の立場になり、職員・利用者・家族・地域との繋がりを大切にし、楽しいホームづくりを目指している。特に、職員同士の連携が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民に、ホームの行事へ来て頂いたり、近隣小学校や保育所への行事に参加したり、体験学習や慰問を受け入れたり、地区の行事にも参加するなどし交流している。	自治会には加入していないが、地区の定例会には、行事への参加案内や情報収集などで時々出席している。地元保育園児達が毎月園報を届けに来たり、小学生が「ふれあい体験」で訪れ利用者と交流し、喜ばれたり、地区のコミュニティセンターに文化祭を見に行ったり、特にも、ホームでの夏の納涼祭には、親子での参加が多く大盛況であった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での施設の取り組み報告等の中で認知症介護他福祉関連情報について説明報告する他、民生委員等の施設見学に対応するなどし、認知症の理解や支援法の浸透に努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年6回開催。施設の取り組みについて報告すると共に、運営推進委員より意見を求め、指摘等あれば改善するなどしサービス向上に努めている。	多様な方々の出席をいただき、ホームの運営状況・今後のスケジュールや、ヒヤリハット報告をし、時には求人についてのお願いや、防災に関する意見交換も行き、避難訓練への呼びかけも行っている。必要時には、消防への出席もお願いし、自然災害への一部見直し検討を考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的開催される介護サービス事業所会議や勉強会への参加、市担当課職員の運営推進会議へ参加を頂き協力関係の継続に努めている。	運営推進会議や、介護サービス事業所会議に出席し、国や市からの情報や、感染症についての注意事項などの情報を得たり、また、事業所からは認定更新・求人对策の相談等で、直接役所に向いたり、広報を届けたりして相互のコミュニケーションを大事にしている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「箱根山」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で行う研修会への参加、「身体拘束マニュアル」を熟読し理解に努め、日々身体拘束を意識すると共に、玄関に「身体拘束ゼロ」を宣言する掲示を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内の身体拘束委員会があり、その都度、事業所からも出席し、拘束に関する意識を高めている。現在は、ホーム内で若干の帰宅願望者はあるが、見守り・気分転換にて対応されている。玄関に「身体拘束ゼロ」を掲げ、理念「おもいやり」との繋がりを職員は大事にして、徹底して拘束ゼロを心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で行う研修会への参加、職員用にパンフレットを閲覧し易い場所へ置き読むよう勧め周知に努めている。また、管理者は虐待が行われないよう注視している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で行う研修会への参加、職員用に閲覧し易い場所へパンフレットを置き周知・活用に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際は、文書を基に説明すると共に疑問点や要望等伺い、理解と同意に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人で年に一度家族向けのアンケートを行い集計、分析、回答しサービス向上に努めている。また、随時入居者や来所された家族に入居者の状態報告等行うと共に意見を求め、運営に反映するようにしている。	年一度、法人の接遇委員会で、家族アンケートをとり、それに関するコメントを要する際には、ホームから直接郵送している。推進委員会時にも家族の出席があるが、殆ど感謝の念を頂くことが多い。家族面会時にも、気楽に話し合えるように気配りをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り、月1回行われるミーティング等にて意見を聞き、運営に活かすようにしている。	朝のミーティングや毎月のミーティング時に、意見・提案を出してもらっている。職員の連絡帳も、利用している。休暇に関するシフト変更や、四季のホーム内の装飾や食材の買い出し等は、随時意見を聞き対応しており、運営面のホーム内での判断が出来かねる際には、法人本部を通して対応している。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「箱根山」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回行っている。また、ミーティング等で上がった意見を検討・改善し、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の仕事を観察し必要に応じ意見すると共に、法人内外各種研修へ派遣しスキル獲得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市及び県主催の介護や医療関係の研修会等に参加し交流している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際し、入居者本人様と面談し説明、要望等お伺いし安心して過ごせるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際し、家族様とも面談し説明、要望等お伺いし、家族様も安心して過ごせるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に際し、本人様や家族との面談、関係機関と連携し情報を得、最善のサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事や掃除、洗濯物量み等できる事は自分で行って頂き残存能力を活用し、生活を共にしている家族的な関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会を呼び掛けると共に、行事の際にも参加を呼びかけ、家族との関係継続に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を呼びかけると共に、本人様から要望があれば家族等に連絡を取り支援を呼びかけるなどしている。	小学校の校長先生や保育園の園長先生が推進委員となっていることもあり、子供達との交流が活発である。納涼祭やクリスマス会には大勢訪問されることで、プレゼントも用意している。家族の協力で、墓参りや外食、自宅に物をとりに行く方もいる。また、地域のコミュニティセンターでの文化祭には、“かかし”を出品し、見学にも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様を観察し他者との相性を測り、お互い仲良く支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退去し自宅に戻られた入居者のお宅を訪問したり、その後入所された施設を訪問し声掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とお話の中で、その人の思いを探り出すと共に希望等伺い意向の把握に努めている。意思疎通が取れない方については、発言、過去の情報、生活歴等の情報を基に検討している。	入居時の聞き取りの他に、日々の暮らしの中で思いを知り得るようにしている。難聴・高齢等で反応が少なく、把握しづらい利用者には、家族から聞いたり、特に担当職員が様子を察したりしながら対応している。100歳を越えている元気な利用者は、現在もにこやかに生き活きた目で「負けるもんかい」と言って、明るさを放っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族等より情報を得る他、普段の会話などから情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日々入居者を観察している他、入居者に個々に担当が付いており、特に担当は観察し把握に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「箱根山」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成に際しては、本人及び家族様より意向確認し計画に反映すると共に、課題分析し、職員でカンファレンスを行い意見を取り入れ作成している。	ケアプランの作成にあたっては、本人・家族(毎月の連絡書)との日々の関わりから思いや意向を聞いて反映するようにし、プランの素案を全職員で(特に居室担当)で、意見交換やモニタリング・カンファレンスを行い、現状に即したものにしている。半年ごとの見直しとなっているが、変化に伴い、臨機応変に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録への記録(入力)の他、定期(1ヶ月)及び状態変化時等随時評価し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節毎に行事を企画したり、地域の行事に参加したり、畑で採れた野菜を使った料理を振舞うなど、その時々にもニーズに対応した取り組みに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加、近隣小学校や保育所との交流等通じ、楽しく過ごせるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的及び必要時主治医に往診頂く他、本人及び家族様が他院受診を望まれた際は要望に応じ対応することになっている。	現在は、利用者全員、かかりつけ医は法人の松原苑となっており、毎月2回の訪問診療と毎週1回の訪問看護を受け、健康管理を徹底している。臨機応変な往診も可能である。医師とは密に連絡を取り、助言・指導もいただいている。歯科診療は家族対応となっているが、状況によっては、ホームでの通院対応もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じ訪問看護師や訪問診療へ連絡し対処している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては、口頭他文書で情報提供すると共に、時に病室に出向き見舞い状態を把握、また、退院の際には病院側からも文書で情報を頂くようにしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「箱根山」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が不調等の際は家族様に状態報告し、その中で高齢であるがゆえ急変等の可能性も有り得る事伝え理解を求める他、看取りについて説明し方針の共有と理解に努めている。	本人・家族の意向を踏まえ、医師と職員の連携を密にとり、安心して納得した最期を迎えられるように、随時意思を確認しながら取り組むように心得ている。母体施設で看取りを経験した職員もいる。夜勤者の不安を軽減するためにも、看護師を講師に重度化対応の技術と心構えを法人の看取り委員会で学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で行う研修会に参加する他、実際に対応した際の反省等活かして対応している。定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し職員に周知している他、法人で行う研修会等に参加したり、消防訓練等行うなど災害に備えている。また、隣家へも有事の際には協力頂きたい旨を伝え理解得ており、訓練に参加して頂いたこともある。	緊急時対応マニュアルを基に地震・火災・津波を想定した一連の避難訓練を実施している。法人の災害対策委員会による研修も受けている。緊急時の連絡体制や、非常食品等は完備している。しかし、避難路が坂道であることや周りに民家が少ないというリスクがある。	坂道の小高い場所に位置しており、近所の民家が少なく孤立的であるが故に、近所からの応援体制がとりにくい面と、坂道の避難路に問題がある。更なる地域への呼びかけによる、確実な応援体制と、とっさの取るべき行動マニュアル(アクションカード)の携帯等についての再確認を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の念を忘れずに、人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めている。	利用者には、“さん”付けで呼び、地元の適度な方言を交え、ごく普通の人生の先輩・後輩の会話を楽しんでいる。笑顔で相手の目を見て話すことも心がけている。トイレ・入浴時の声掛けも、尊厳を意識し、そっとさりげなく誘導され、家庭的な温かみを感じた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で希望を伺うと共に、介護側からの一方的な支援にならず、なるべく自己決定できるよう選択肢を与えるなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護側の都合や思いを優先せず、その方のペースや生活習慣を尊重した意向に沿ったケア提供に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「箱根山」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の選択については、入浴や起床後等可能な方は自分で選び用意して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中で食べたい物がないか聞きメニューに取り入れている。また、食事準備や後片付け等なるべく行って頂いている。	係の職員が、利用者から希望食を聞いたり、時には管理栄養士の指導を受けて、献立を決めている。準備・片付けを手伝う利用者は、エプロンを着て手伝っている。また、栄養のバランスを考慮して、麦ごはんを焼くこともある。職員も一緒に会話をしながら食べており、家庭的な風景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肥満傾向の入居者への対応、水分管理、高齢や不調等により食事量が減っている方には提供カロリーを増やし、時に栄養士に相談するなどし、一人一人の状態に応じた支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力での口腔ケアが困難な入居者には職員が口腔清拭を行うと共に、指示誘導が必要な方には付き添い介助するなど状態に応じたケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力での排泄が困難な方には定時で誘導したり、オムツ着用には抵抗がある方に対してはパンツ交換の声掛けを行ったりし、できる限りトイレで排泄し自立できるよう努めている。	自力で排泄可能な利用者には、トイレ付の居室(4室)を利用して頂き、自力では不安な方には、誘導と見守りを行っている。各居室に排泄チェック表を置き、その都度自分で記入することで、いろんな角度から、自覚され、自立度への利点が多い。工夫していることが強く感じられた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜などなるべく食物繊維を提供する他、水分管理、運動(ラジオ体操等)慣行、下剤の検討等便秘対策に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「箱根山」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間については、入居者様の同意で行う他、回数多く入浴したい希望の方にはそれに応じたり、音楽好きの方には音楽を聴きながら入浴して頂くなどしている。	入浴は、週2回を目途に、希望やタイミングに合わせて声掛けを行っている。浴槽での入浴困難な方には、シャワー浴や足浴を行っている。風呂場全体（更衣室含）が床暖で適温になっている。入浴を嫌がる方には、好きな曲を流したり、ジョークを言って気分転換を図ったりして、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望に応じ昼寝の時間を設けたり、居室で過ごされる方についてはエアコンを使い温度管理に配慮したり、1日1回は換気すたり、夜は常夜灯を灯すなどし配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書を職員一人一人が確認し理解すると共に、服薬後等状態に変わりがないか観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションを行ったり、行事を企画したり、趣味等やりたい事がある方についてはそれを支援したりと、役割を持ち、その人なりに楽しく過ごせるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外作業等望まれる入居者に対し、体調確認や気候も考慮の上対応している。家族の協力で外出される事もある。	地域のコミュニティセンターが隣接しており、文化祭や芸能発表等には招かれている。また、好天気には、利用者の希望を聞き、周囲の散歩・ドライブを試みたりしている。家族の協力で外食に出かける方や、自宅に帰ってくる方もいる。冬期には、外出回数も少なくなり、ホーム内での編み物・読書・ぬり絵等の趣味に取り組んでる方や、ホームからの田園風景をゆったり眺める方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいをお預かりし必要品を購入したり、希望があれば欲しい物を買ったりしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム「箱根山」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している。高頻度で電話を掛けたり手紙を出される家族もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花や装飾品を飾ったり、メダカの水槽を置くと共に、テレビの音量、温湿度管理、明るさ等に配慮し、快適に過ごせるよう配慮している。	リビング表面の大きなガラス戸から見下ろすと、四季折々の田園風景が見渡せる。クリスマスを真近に控え、大きなクリスマスツリーと、天井から壁にかけてある装飾は、気分を盛り上げている。装飾台には地域の文化祭に出品した大きな“かかし”を飾り、サイドにはメダカの水槽がある。広い廊下の天窓と、内部全体の落ち着いた和風の電燈シェードが適度な明るさを保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いたり、廊下に談話室があり活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様や家族様と相談の下レイアウトを決めたり好みの物を置いたり、馴染みの家具等持ち込みして頂き、家庭的に落ち着いて過ごせるよう配慮している。	使い慣れた置き時計・座椅子・テレビ・ぬいぐるみ・家族写真・カレンダー等が思い思いに配置しており、個性を感じる。トイレ付の居室が4室あり、利用者の状況を踏まえ使用されている。和風の電燈シェードが、居室の清潔さを更に引き立たせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内バリアフリー構造。手洗い場やトイレ等各所に注意事項を貼り注意喚起し安全且つ自立した生活が送れるよう努めている。		